

粕谷和夫の観察日記。12月25日、都営新宿線の東大島駅近くの荒川でカモ達を見ていました。スズガモ、キンクロハジロ、ヒドリガモ等の群れに混じりカムリカイツブリ(写真左)も数羽いました。そのうちの1羽にウミアイサ(右)が突進してきてバトルになりました。予期していなかった光景が目の前に突然現れてビックリです。

紅葉台



新聞

第167号
2025年
2月1日
発行人：関谷 孝

火大晦日探鳥会 大磯谷戸川からみかん畑へ

毎年恒例の大晦日探鳥会。八王子カワセミ会が誕生して約40年続いている行事です。この日に探鳥会をするのは大晦日は人が出かけないからとのこと。物珍しさもあって毎年この日に参加している人は常連です。東海道線二宮駅10時集合。早く着いたので二宮で有名な「ガラスのうさぎ」の碑を南口に見に行きました。2代目となる大きな楠の下に記念の像がありました。戦争の悲惨さを物語る実話です。本は是非一読してみてください。その直ぐ近くに地元の八百屋さんがいました。蜜柑が大袋に入って約300円。思わず買ってしまいました。湘南地域は温暖な気候のため海岸線に向かって蜜柑山がたくさんあります。



さて、本日は18名参加。大磯行きのバスは休日運転。それに乗って月京バス停まで行きます。そこから谷戸川に沿って上流めざしひたすら歩きました。市内を流れる川は相模湾に向かって流れていきます。街中はコンクリートの川床なので生き物が見当たりません。それでも山道に入ると水は澄み、雑木林が鬱蒼としています。途中木々が開け、日の当たる場所にヤマガラ、コゲラ、エナガなどがせわしく餌を探し飛び回っていました。陽だまりの所では小さな虫がたくさん飛んでいました。よく見るとその中にムラサキシジミが10数匹ほど成虫越冬集団していました。蝶が好きな粕谷会長が盛んに写真を撮っていました。群れているのは珍しいようです。しばらく歩くと小川が分かれた小さな橋の近くにカワセミが川岸の太い枯枝に止まっていた。日が当たって羽が緑色に輝いて見えます。しばらく佇んでいたのによく観察できました。

山道を歩いていると外車に乗った外国の観光客が現れました。所々でビデオをとっているようで、私たちと同じコースを走り抜けていきました。粕谷会長は、この先「ぼつんと一軒家の」のような山奥に集落があるというのですが、半信半疑でした。山の頂上近くになるとそこは風景が一変します。開けた青空にちょうどノスリ2羽が姿を現しました。悠々と旋回飛行する姿はさすがに猛禽類の風格があります。翅のところが黒い模様が良く見えました。偶然の出会いが探鳥会の面白さです。ほんのちょっとしたタイミングがあつての出会いです。しばらく行くとジョウビタキが尾羽を可愛く振り登場。かわいしぐさが人気の野鳥です。そこからしばらく歩くと、雄大な富士山が目の前に遮るものもなく聳えていました。雪が山頂近くにありましたがこれからもっと雪化粧をすることでしょ。西久保展望台からこの景色を見ること

が出来ただけでも最高の幸せでした。右手には丹沢の山々や大山が連なって見えました。粕谷会長に聞くとこの場所は数年前にNHKの「自然百景」で紹介され、いつか行きたいと思って温めていたところなのだと話していました。ここで昼食休憩。トイレも最新式でした。また、ミカンの木があちこちにあるミカン狩りの看板がありました。今はもう時期が過ぎていますが、みかんの木々の下には鈴なりに蜜柑がなっていました。そこからは帰り道。下りです。途中で蜜柑の販売所がありましたが本日は休みでした。また、近くの民家にガチョウの置物?と思いきや動いています。私たちを見付けると羽を大きく羽ばたかせ「ガーガー」と威嚇してきます。珍しいと見とれていると粕谷会長は「昔は民家で番犬の代わりにガチョウを飼っていた」と教えてくれました。確かに迫力があるので番犬代わりになります。やっと終点の厚木小田原道路の下をくぐり空き地で鳥合わせをしました。今回のベストはノスリ・カワセミ・ガチョウ(番外)それでも24種見付けました。其のあとは解散。箱根駅伝のコースで帰った人やバスに乗った人様々。いつもながら解散は蜘蛛の子を散らすようでした。快晴で日差しが暖かく16℃ありました。このぐらいの距離を歩けるうちに行かないと行きたくてもいけなくなるのではと思いました。それにしても粕谷会の健脚には驚くばかりでした。



大磯行きのバスは休日運転。それに乗って月京バス停まで行きます。そこから谷戸川に沿って上流めざしひたすら歩きました。市内を流れる川は相模湾に向かって流れていきます。街中はコンクリートの川床なので生き物が見当たりません。それでも山道に入ると水は澄み、雑木林が鬱蒼としています。途中木々が開け、日の当たる場所にヤマガラ、コゲラ、エナガなどがせわしく餌を探し飛び回っていました。陽だまりの所では小さな虫がたくさん飛んでいました。よく見るとその中にムラサキシジミが10数匹ほど成虫越冬集団していました。蝶が好きな粕谷会長が盛んに写真を撮っていました。群れているのは珍しいようです。しばらく歩くと小川が分かれた小さな橋の近くにカワセミが川岸の太い枯枝に止まっていた。日が当たって羽が緑色に輝いて見えます。しばらく佇んでいたのによく観察できました。



大磯行きのバスは休日運転。それに乗って月京バス停まで行きます。そこから谷戸川に沿って上流めざしひたすら歩きました。市内を流れる川は相模湾に向かって流れていきます。街中はコンクリートの川床なので生き物が見当たりません。それでも山道に入ると水は澄み、雑木林が鬱蒼としています。途中木々が開け、日の当たる場所にヤマガラ、コゲラ、エナガなどがせわしく餌を探し飛び回っていました。陽だまりの所では小さな虫がたくさん飛んでいました。よく見るとその中にムラサキシジミが10数匹ほど成虫越冬集団していました。蝶が好きな粕谷会長が盛んに写真を撮っていました。群れているのは珍しいようです。しばらく歩くと小川が分かれた小さな橋の近くにカワセミが川岸の太い枯枝に止まっていた。日が当たって羽が緑色に輝いて見えます。しばらく佇んでいたのによく観察できました。

大磯行きのバスは休日運転。それに乗って月京バス停まで行きます。そこから谷戸川に沿って上流めざしひたすら歩きました。市内を流れる川は相模湾に向かって流れていきます。街中はコンクリートの川床なので生き物が見当たりません。それでも山道に入ると水は澄み、雑木林が鬱蒼としています。途中木々が開け、日の当たる場所にヤマガラ、コゲラ、エナガなどがせわしく餌を探し飛び回っていました。陽だまりの所では小さな虫がたくさん飛んでいました。よく見るとその中にムラサキシジミが10数匹ほど成虫越冬集団していました。蝶が好きな粕谷会長が盛んに写真を撮っていました。群れているのは珍しいようです。しばらく歩くと小川が分かれた小さな橋の近くにカワセミが川岸の太い枯枝に止まっていた。日が当たって羽が緑色に輝いて見えます。しばらく佇んでいたのによく観察できました。



粕谷和夫の観察日記



八王子・宇津貫緑地の調整池には5月頃から9月頃までの間に黄色い花が水面に咲き誇るアサザが繁茂しています。冬になり、水鳥のオオバンがやって来てアサザを食べていました。アサザは冬になると葉が枯れて根茎で越冬する習性を持ってもっているの、オオバンはアサザの茎を食べているものと思われます。

カラスザンショウの実を食べに来たジョウビタキのオスです。今の時期、野山や庭、公園等でガマズミ、ゴンズイなどの赤い実がよく目立ちますが、鳥たちはこの写真のようなカラスザンショウやヌルデ等の赤くない実を好んで食べるようです。



紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。